

次世代につながる夢のあるふるさとづくり

# 平成30年度 町政執行方針・予算概要

第1回議会定例会で平成30年度の町政執行方針と教育行政執行方針が述べられ、新年度の南幌町の基本方針が示されました。その要旨と主要事業の予算概要についてお知らせします。



## 第1 「元気づくりのまち」 農業振興と担い手対策

国主導で続いてきた米の生産調整が産地主導に切り替わるとともに、直接支払交付金も廃止になるなど、農業情勢は新たな局面を迎えますが、依然として不透明な状況が続いています。

昨年は、台風や大雨等による大きな被害もなく、基幹作物である米をはじめ、小麦、大豆のほか野菜も良好で、過去10年間で最高の農業収入が見込まれることは生産者並びに関係機関の皆さまの努力の賜物であるとともに、本町が長年取り組んできた土地改良事業の大きな成果であると確信しています。

本年度も、強靱な農業基盤を構築するため、現在実施している経営体育成基盤整備事業の清幌地区ほか4地区及び新規採択の鶴城二期地区の円滑な事業推進に努めます。

また、事業採択された国営かんがい排水事業江別南幌地区において、本年度は西11号排水路改修工事が着工となります。

農業振興対策につきましても、これまでの米の生産調整の影響から、小麦や大豆などへの転作が進み水稲の作付面積が減少してきていますが、農家経済の安定を図るためには、水田面積の維持確保が重要であり、全国的にも北海道米が高く評価されている中、農業振興補助金の効果的な活用を図りながら良質・良食味米の安定生産に努め、基幹産業である農業の持続的な発展に向けて取り組みます。

担い手対策につきましては、意欲ある農業者の経営発展を促進するため、国や北海道の補助制度の活用支援や、親元就農をする方への給付金支給制度「ふるさと就農促進事業」の継続実施により、後継者確保と担い手の育成を図ります。



我が国は、社会・経済の環境変化や将来に向けて不確実性が高まる中であつて、時代にふさわしい持続可能な仕組みをつくるため、社会保障や教育、産業経済、行財政など、さまざまな制度改革が進められています。

地方においては、大都市圏への人口流出や諸機能の集中、地域経済の縮小や地域コミュニティの衰退など、乗り越えなければならぬ多くの課題に直面しています。

本町におきましては、「第6期南幌町総合計画」に沿って、将来をしっかりと見据え、夢と希望に満ちた持続可能なまちづくりを着実に進める必要があります、そのことが私の責務です。

農業振興と担い手対策

ふるさと就農促進事業 3,120千円

- 意欲ある農業研修生及び新規就農者のうち、北海道農業次世代人材投資事業の要件を満たすことが難しい農業者に対し町が支援
- 農業研修型：月額2万円（最大2年間）
  - 新規就農型：月額4万円（最大3年間）

農産物の地産地消と特産品販売の促進

食育活動推進事業 3,375千円

- 親子農業体験塾 ●バケツ稲づくり学習
- 地元農産物を利用した料理・加工教室
- 子育て支援米支給（拡充）  
※中学生までを対象に南幌産米「なんぼろピュアライスきたくりん」を支給（1人10kg）

企業誘致の推進と農商工連携による地域振興の活性化

企業誘致推進事業 18,049千円

- 対象業種を絞った積極的な企業誘致訪問活動
- 「ふるさと北海道応援フォーラム」への出店によるPR活動
- 南幌町企業誘致促進条例に基づく企業立地等奨励金の交付

にぎわいのあるまちづくりとイベント活動への連携支援

**新規** 地域おこし協力隊設置事業 960千円

観光振興の充実強化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、観光情報の収集発信や観光資源の利活用方法など、新たな視点で自ら活動する「(仮称)観光掘りおこし隊員」を1名配置

**拡充** ふるさと物産館管理事業 27,548千円

- 観光・物産等の拠点施設である「ふるさと物産館ビューロー」を町内外より多くの方に来てもらえる施設へ改善
- 施設全体の照明器具LED化工事（新規）
  - 敷地内案内看板の修繕

農産物の地産地消と特産品販売の促進

農産物の地産地消につきましては、中学生までを対象に、減農薬で栽培された「なんぼろピュアライスきたくりん」を子育て支援米として継続支給します。特産品販売の促進につきましては、キャベツキムチ、ピュアホワイトスープなどに続く特産品として、本町

で生産された大麦若葉を原料として製品化した青汁「なんと！おいしい若葉のしずく」も好評を得ており、今後も生産者や企業等の取り組みに対して支援するとともに、町内外のイベントなどにおいて販売促進を図ります。

企業誘致の推進と農商工連携による地域振興の活性化

企業誘致につきましては、南幌工業団地販売戦略に基づき、様々な媒体を活用した情報発信をはじめ、東京と名古屋で開催される「北海道応援フォーラム」に出展するとともに、新たな立地企業を発掘するため、企業の立地意向調査を行い道内外の企業訪問活動に取り

り組むなど、積極的な誘致活動を実施します。また、南幌工業団地企業協議会はもとより、金融機関や不動産業とも積極的に情報交流を進めつつ、企業のニーズに応じた農業や商業分野との連携の可能性について調整を図ります。

商工事業者への経営支援につきましては、町独自の中小企業総合振興資金利子補給事業を継続実施し、中小企業者の負担軽減を促進します。

商工会運営支援においては、商工事業者への経営改善普及事業や町の活性化につながる地域振興事業を支援します。

にぎわいのあるまちづくりとイベント活動への連携支援

にぎわいのあるまちづくりを推進するため、「商工会ふれあいまつり」をはじめ、「農協夜まつり」、農業青年が中心となり開催している「野祭」、観光協会主催の「秋の大収穫祭」や「なんぼろ冬まつり」など多くの町民が集い、交流の場となる各種イベントを支援します。

また、昨年度創設した「空き店舗活用支援事業」を継続実施し、市街地商店街の活性化に取り組みます。



観光振興につきましては、観光協会への運営支援を継続するとともに、昨年度実施した観光総合案内人試行配置の結果に基づき、本年度より観光協会特販所の常駐職員を町が年間配置し、観光案内はもとより、特産品や農産物の販売・PRなどを含め、観光振興事業の充実強化に努めます。本年度は新たに、地域おこし協力隊制度を活用し、観光情報の収集・発信や観光資源の利活用方法など、新たな視点で自ら活動する「(仮称)観光掘りおこし隊員」を配置します。広域観光連携につきましては、南空知4町広域観光

## 人口減少の抑制と知名度アップの取り組み

子育て世代住宅建築費助成事業 20,000千円

人口減少の抑制及び定住の促進並びにまちの活性化を図るため、子育て世代を限定として住宅建築費を助成。

知名度向上対策事業 6,607千円

主に札幌圏内に居住する子育て世代を中心に知名度向上及びイメージアップを図り移住促進や地域誘客促進を図る。

## 子どもたちの教育環境の改善

**新規** 公設学習塾事業 3,448千円

児童生徒の基礎学力と学習意欲の向上、家庭学習の定着を図るため、民間学習塾と連携し、公設学習塾を開設。

- 対象：小学4年生～中学3年生
- 教科：算数・数学（1コマ60分）

少人数学級教職員加配事業 5,033千円

国及び北海道の少人数学級基準が適用された学年について、小学校の在籍中を通じて、適正規模である2学級を維持するため、少人数学級を導入し、町独自で教職員の加配を行う。

連携事業として、札幌市内の道産品販売店における4町の特産品販売や道内外の自転車愛好者を対象とした4町を巡るサイクルイベントに取り組みとともに、ご当地グルメなどを自転車で満喫する「北海道そらちグールメフオンド2018」に参加します。

立ち寄れる「交流促進の場」となるよう、施設の一部改修を行い、観光協会と一体となつて取り組みます。南幌温泉ハート&ハートにつきましましては、昨年度の日帰り棟及び宿泊棟の大規模改修工事完了に伴い、本年4月上旬にリニューアルオープンを予定しており、今後町内外の多くの方にご利用をいただけるよう、指定管理者と協議・連携の

人口減少の抑制と知名度アップの取り組み

人口減少・少子高齢化が進む中、北海道においては全国を上回るスピードで人口減少が進行しており、本町も例外ではありません。大きな課題である人口減少を抑制していくため、「第6期南幌町総合計画」並びに「南幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、移住定住や知名度向上

も、温泉入込客の増加に努めます。なお、本年度も指定管理者のご協力をいただき、町民無料入浴券配布事業を実施します。町内団体等との協働によるまちづくりを一層推進するため、まちづくり活動支援事業を継続します。この事業は団体等の提案を事業化する場合に補助金を交付するもので、「協働のまちづくり」「地域コミュニティ活性化」「地域交流推進」の3つのメニューからなっており、新たな提案をより多くいただけるよう、一層の周知や申請団体が求めるサポートなどに努めます。

また、知名度向上対策につきましましては、引き続き「なんと！なんぼろ」をキャッチコピーに、新たな事業を展開しながら、主に札幌圏内に居住する子育て世代をターゲットに本町への誘客やまちのPRなどの取り組みを進めます。このほか、東京、名古屋及び大阪での移住相談会の開催をはじめ、札幌市円山動物園でのPRイベントなどを企画するとともに、移

住体験事業や本町の魅力を体験するツアーを実施することで、知名度のアップと移住定住の促進を図ります。第2「人づくりのまち」子どもたちの教育環境の改善

変化が激しく先の見通せない社会を生き抜くために、子どもたち一人ひとりが自ら学び考え、課題を発見し、他者と連携・協働しながら解決できる能力を育むことが求められています。未来を生きる子どもたちが、生き生きと学び育つことができるよう、「南幌町教育大綱」に基づき、家庭、地域、学校が一体となった教育環境づくりに取り組めます。

子どもたちの教育環境の改善

変化が激しく先の見通せない社会を生き抜くために、子どもたち一人ひとりが自ら学び考え、課題を発見し、他者と連携・協働しながら解決できる能力を育むことが求められています。未来を生きる子どもたちが、生き生きと学び育つことができるよう、「南幌町教育大綱」に基づき、家庭、地域、学校が一体となった教育環境づくりに取り組めます。

子どもたちの生きる力の根幹となる確かな学力を身につけるため、小・中学校に公設学習塾を開設し、基礎学力の向上と学習習慣の定着化に取り組めます。南幌小学校については、南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、学校の適正規模を維持

## 生涯学習の推進

### 青少年健全育成事業

2,527千円

- 放課後子ども教室 ● 週末支援テニス教室
- 青少年健全育成を考える集い
- 子ども会育成連絡協議会支援事業

### 子育て世代への支援

#### 拡充 保育所等運営補助事業

179,823千円

保育所の運営について、継続的・安定的な保育環境を整えるため、設置者に対して子ども・子育て支援法に基づく負担及び南幌町民間保育所運営費補助金交付要綱に基づく補助を行う。また、新たに認定子ども園となる町内私立幼稚園に対し、子ども・子育て支援法に基づく負担及び補助を行う。

#### 高等学校等通学費補助事業

16,709千円

- 補助基準：通学に要する公共交通機関の通学定期購入額の2分の1を助成
- 補助額：通学先の学校ごとに月額単価を設定（通学方法や生徒の居住地を問わない）

するため、1学年2学級の維持が困難な学年について、町独自に教員を配置し、教育環境の充実を図ります。

また、国際社会で活躍できる人材育成として、生きた英語力を習得する「中学生国際留学プログラム事業」については、外国語学習に対する児童・生徒の意識の向上が図られていることから引き続き実施しま

す。南幌高等学校につきましては、昨年度より、南幌中学校からの入学者に対する入学祝い金の支給、通学費の補助を追加し、魅力ある高校づくりを支援していましたが、依然として入学者が定員に満たない厳しい状況です。本年度においても、これまでの経済的な支援に加え、地域と共有する高校と

して、魅力ある活動や情報発信に取り組み、地元高校への進学者の増加に繋がるよう引き続き支援します。



生涯学習の推進

町民一人ひとりが、自分の人生を楽しく豊かなものにするため、住み慣れた地域で、生きがいをもって暮らすことができる環境を創り出すことが大切であり、様々な学習活動に積極的に参加できる「地域づくり」「人づくり」を進めることが必要です。そのため、「南幌町生涯学習基本構想」に基づき、各ライフステージにおいて自由な意思と自分に適した手段・方法によって学習し、学びを通して人生を楽しく豊かなものにするための環

境づくりに取り組みます。

生涯学習センターほろやスポーツセンターをはじめとする社会教育施設では、各事業への参加者を含め、年間10万人以上の方々にご利用いただいています。今後も町民の生涯学習の拠点、スポーツ活動の推進や健康増進の場として、多様な学習機会の創設や施設の充実・活用に取り組みます。

芸術・文化に接する機会の充実やふるさとの歴史への理解を深め、伝承していくことは、豊かな人間性やふるさとへの愛着心の醸成に重要です。

文化活動の中心的な役割を果たしている文化協会をはじめ、各種団体と連携・協力し文化活動の充実に努めます。

### 子育て支援

少子化や核家族化の進展により、家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。子どもたちが健やかに成長できるように、関係部署が相互に連携を図り、まち全体で子育て支援に取り組みます。

母子保健につまましては、「南幌町子育て世代包括支援センター」を設置し、子育て経験者による「産前・産後サポート事業」や助産師等による「産後ケア事業」の実施により、個別支援を強化することで妊娠から子育て期における切れ目のない支援に取り組みます。

さらに、「特定不妊治療費助成事業」「産婦健康診査事業」「新生児聴覚検査助成事業」を実施し、経済的負担の軽減を図ります。

乳幼児期の教育・保育につつましては、町内私立幼稚園の認定こども園への移行に伴い、保育が必要な幼児の受け入れが可能になったところです。今後も安心して子育てと仕事の両立ができるよう、保育環境の充実に努めます。

また、子どもの健康増進と子育て環境の充実を図るため、小学生以下の子どもの医療費の無料化を引き続き実施します。

学校給食につつましては、「南幌町食育推進計画」に基づき、基幹作物に対する理解を深める取り組みを進めるとともに、主食については町が全額費用負担

## 町民の健康づくりの促進

成人保健事業 16,306千円  
●健康教育、健康相談 ●各種がん検診 ●脳検診  
●肝炎ウイルス検査

感染症予防事業 18,656千円  
●予防接種 子ども対象：四種混合等11種類  
高齢者対象：肺炎球菌・インフルエンザ

## 障がい者・障がい児支援の拡充と地域福祉の推進

**拡新** 難聴児補聴器購入助成事業 167千円

身体障害者手帳の交付対象とならない軽度中等度の難聴がある児童の言語の習得や教育等における健全な発達を支援するため、補聴器購入費等を助成します。

地域生活支援事業 8,315千円

障がいのある方が地域において、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じたサービスを提供。

- 成年後見制度普及啓発の講演会
- 手話奉仕員養成講座（基礎編） 全20回
- 訪問入浴サービス事業（新規） ●自発的活動支援事業（新規）

町民の健康づくりにつきましては、特定健康診査、特定保健指導、各種がん検診などの実施により、生活習慣病の重症化予防に取り組みます。各種がん検診につきましては、個別受診勧奨により、がん検診の必要性を理解していただき、がんの早期発見に努めます。また、肝炎の早期発見・早期治療のために、肝炎ウイルス検査未受診の方に対して、対象年齢を限定した無料受診券を発行し、受診勧奨を図ります。国民健康保険事業の特定健康診査では、引き続き健

障がい者・障がい児福祉につきましては、「第5期南幌町障がい福祉計画」並びに「第1期南幌町障がい児福祉計画」に基づき、「支えあい、ともに暮らせるまちづくり」を目指します。特に本年度は、難聴児補聴器購入助成事業を新設するほか、移送サービスを充実するためフト付き福祉車両を更新します。また、障がい者相談支援体制につきましては、地域生活支援拠点整備事業の広域実施に向けて、岩見沢市を中心とする2市3町による実務的な協議を進めます。聴覚障がいのある方との意思疎通を図る手話奉仕員養成につきましては、昨年度スキルアップを目的とした養成講座基礎編を実施しましたが、本年度はこれまでに取得した技量を活かすた

高齢者が健康で暮らし集えるまちづくりは、高齢者福祉につきましては、「第7期南幌町介護保険事業計画」に基づき、高齢者が健康で生きがいを持ちながら、自分らしい生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に努めます。そのため、生活習慣病の重症化予防と介護予防に関する知識や活動を啓発し、老人クラブの自主的な活動支援をはじめ、地域で

し、引き続き保護者の負担軽減を図ります。高等学校などへの通学に対する「高等学校等通学費補助事業」につきましては、学校毎の定額補助を継続して実施し、子育て世代への支援を行います。地域における子育て支援活動であります「せわやき・せわやき隊」につきましては、隊員皆さまの活動により、児童の見守り・声かけ

活動が円滑に行われるよう、引き続き必要な支援を行います。姉妹町交流の推進平成22年に姉妹町締結以来、9年目を迎えた熊本県多良木町との交流は、町民が相互に両町を訪問する助成事業の実施により、両町で交流の輪が広がっています。本年度も児童交流や物



産交流をはじめ、相互の友好親善と理解を深め、ふれあう機会など一層の交流が図られるよう支援します。

### 第3 「安心づくりのまち」

### 町民の健康づくりの促進

康ポイント事業や未受診者への個別勧奨を行い、受診率向上を図るとともに、健診データを活用した個別の保健指導を実施します。障がい者・障がい児支援の充実と地域福祉の推進

め、町内での各種会議等へ手話奉仕員の派遣を行います。地域福祉の推進につきましては、生活困窮家庭やひとり親家庭、障がいのある方の家庭や高齢者世帯などを地域で支えていくため、民生委員児童委員による見守り活動や青少年等の更生保護業務を担う保護司活動、基本的人権の擁護を担う人権擁護委員活動を引き続き支援するとともに、社会福祉協議会など関係団体との連携を図り、地域福祉活動の支援に取り組ま

## 高齢者が健康で暮らし集えるまちづくり

高齢者在宅支援事業 3,925千円  
 ●緊急通報装置設置 ●除雪サービス  
 ●屋根雪下ろし助成

## 災害に備えたまちづくりの推進

防災対策事業 7,559千円  
 急激な気象変化に伴う自然災害を想定し、防災機能の強化と地域防災力の向上を図る。  
 ●防災備蓄用整備（食料品・オストメイト専用トイレ・簡易パーテーション・発電機等）  
 ●全国瞬時警報システム受信機更新  
 ●防災フェスタの開催

**新規** 防災設備等整備事業 70,179千円  
 大規模災害時に役場庁舎機能を維持するため、非常用発電機を設置し、防災体制の強化を図ります。  
 ●役場庁舎非常用発電機設置実施設計・設置工事

**新規** 消防団指令車更新事業 7,643千円  
 大規模災害時などの停電による消防庁舎の機能停止に備え、非常用自家発電設備を更新。

気軽に集える「カフェサロン」などの居場所づくりに取り組みます。  
 さらに、介護予防に係る活動や事業の運営を支えるボランティアの育成・確保を図るため、ボランティアポイント事業による高齢者の社会参加を促進します。  
 昨年度より開始した「介護予防・日常生活支援総合事業」では、要支援認定を受けた高齢者等への多様な

サービスとして、訪問型サービスと通所型サービスのほか、高齢者事業団と連携し、掃除、洗濯など独自のサービスの提供と拡充に努めます。  
 また、一人暮らしや認知症等の高齢者が地域で安心して自立した生活が送れるよう、配食サービスをはじめ、除雪サービスやGPS端末の貸出しを行います。

地域医療を担う町立病院の維持と広域医療圏との連携強化  
 町立病院は、引き続き江別市立病院総合内科より常勤医師の支援を受け、日常的に相談が受けられる「かかりつけ医」を中心とした医療を提供するとともに、高齢者からの需要が多い眼科や整形外科医師による一部診療、医療機能にに応じた患者紹介を行うなど、近隣医療機関との連携を強化し、医療機能を維持します。  
 医療需要が大きく変化する中で、国では療養病床の見直しなどが見込まれています。国の進める医療提供体制の改革を踏まえ、適切な病院機能を維持するための体制構築を検討します。  
 病院経営は厳しい状況にあります。協議や関係部署との間において、地域医療のあり方や持続可能な病院経営についての認識を共有し、医師確保対策や健康予防施策なども含めた効果的な連携を図り、町民の皆さまが住み慣れた地域で安心して医療を受けられるよう、一層の地域医療の確保に努めます。

災害に備えたまちづくりの推進  
 治水対策につきましては、千歳川河川整備計画に基づき、千歳川流域で堤防整備、河道掘削が行われており、晩翠遊水地は、引き続き遊水地内の掘削、周囲堤の盛土、樋門などの工事が進められる予定です。今後もこれらの整備が一層図られるよう、関係自治体と連携し要望活動を進めるとともに、遊水地の利活用について関係機関と協議を進めます。  
 また、大雨時に洪水被害を防ぐため、内水排除施設の点検整備により施設の機能を維持するとともに、普通河川及び幹線排水路の排水能力を確保するため計画的に整備を実施します。  
 防災対策につきましては、急激な気象変化に伴う自然災害を想定し、防災機能の強化と地域防災力の向上が求められています。  
 昨年度、災害対策基本法及び水防法の改正を踏まえ、「南幌町地域防災計画」並びに「南幌町水防計画」の改訂を行い、併せて河川管理者による浸水想定区域

の公表に基づき、新たな洪水ハザードマップを作成し全戸配布を行いました。  
 全国的に災害時における避難所生活が多様化していることから、避難所資機材や備蓄品の充実を努めるとともに、大規模災害時に役場庁舎機能を維持するため、非常用発電機を設置し防災体制の強化を図ります。  
 本年度は、防災関係機関並びに関係団体などの協力を得て、町民誰もが参加できる「南幌町防災フェスタ」を実施するとともに、地域に Outreach した防災学習会や自衛隊・共助・公助の理解促進等、災害が発生した際に被害を最小限に抑える「減災」の啓発活動に取り組みます。

消防団活動につきましては、火災をはじめとするあらゆる災害から地域住民を守るため、日夜、献身的なご尽力をいただいておりますことに敬意と感謝を申し上げます。  
 消防施設整備では、消防団指令車を更新し、災害活動の充実を図ります。  
 救急活動につきましては、多様化する救急病態に

の公表に基づき、新たな洪水ハザードマップを作成し全戸配布を行いました。  
 全国的に災害時における避難所生活が多様化していることから、避難所資機材や備蓄品の充実を努めるとともに、大規模災害時に役場庁舎機能を維持するため、非常用発電機を設置し防災体制の強化を図ります。  
 本年度は、防災関係機関並びに関係団体などの協力を得て、町民誰もが参加できる「南幌町防災フェスタ」を実施するとともに、地域に Outreach した防災学習会や自衛隊・共助・公助の理解促進等、災害が発生した際に被害を最小限に抑える「減災」の啓発活動に取り組みます。

の公表に基づき、新たな洪水ハザードマップを作成し全戸配布を行いました。  
 全国的に災害時における避難所生活が多様化していることから、避難所資機材や備蓄品の充実を努めるとともに、大規模災害時に役場庁舎機能を維持するため、非常用発電機を設置し防災体制の強化を図ります。  
 本年度は、防災関係機関並びに関係団体などの協力を得て、町民誰もが参加できる「南幌町防災フェスタ」を実施するとともに、地域に Outreach した防災学習会や自衛隊・共助・公助の理解促進等、災害が発生した際に被害を最小限に抑える「減災」の啓発活動に取り組みます。

## 環境づくり対策の推進

長幌第2浄水場改築負担金事業	14,872千円
長幌第2浄水場の改築事業に係る南幌町負担分の出資を行う。	
住宅リフォーム等助成事業	6,000千円
住宅リフォーム工事及び除却解体工事に要する費用の一部を助成。	
●限度額：1件あたり30万円	

## 交通対策の推進

生活路線等交通対策事業	2,383千円
各公共交通機関の運行維持と町民に対する交通機関の確保等を目的に交通対策を実施。	
●町内巡回バス運行：町民の交通確保（幹線バスへの接続）として運行。	
※週2日、1日3便（夕鉄バス）、全便町内全域を運行	
橋梁長寿命化修繕事業	22,531千円
町道に架けられている橋梁について、法に基づく点検を行うとともに、橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕等を進めます。	

対応するため、拡大された救命処置の認定取得に努め、さらに救急救命士を1名養成し、救急体制の強化を図ります。

### 環境づくり対策の推進

ごみ処理につきましては、南空知公衆衛生組合と連携し、「減らす・繰り返し・再資源化する」の3R活動による、ごみの減量

化と資源の有効活用を推進します。

また、不法投棄や廃棄物処理対策として、定期的な巡回と指導、啓発看板の設置など、関係機関と連携強化を図り衛生的な生活環境の維持に向けて取り組みます。

道央廃棄物処理組合につきましては、昨年度、用地測量、生活環境影響調査、基本設計などの業務を内容

とする焼却施設基本設計等委託を実施したところで

本年度は、建設用地の取得など、焼却施設整備に向けて事業が進められる予定です。

水環境の保全につきましては、公共下水道や農業集落排水の適正な管理を継続しながら事業を推進し、農村地域の水質保全と生活環境の改善を図るため、合併浄化槽設置の助成を引き続き実施し普及促進に努めます。

長幌上水道企業団につきましては、本町市街地を中心に水道水を供給している第2浄水場の老朽化が著しいことから、施設の更新に向けて、本年度は国庫補助金の交付内示後に調査及び実施設計業務が行われる予定です。

住宅リフォーム等助成事業につきましては、住宅の安全性及び耐久性の向上を図るため工事費用の一部を助成するとともに、地域経済の活性化を目的に引き続き実施します。

なお、公営住宅の維持管理につきましては、住まいを安全に長く使い続けるた

めの長寿命化計画に基づき、栄町団地の給排水設備の改修を年次計画に沿って進めます。

緑化活動では、緑あふれるまちづくりを進めるため、都市公園や緑地帯などの保全に努めるとともに、地域が自主的に行う緑化活動に対し花苗の支給及び支援を行います。

また、夕張川河川敷においては、かつての幌向原野の原風景である湿地性植物からなる湿原の再生に向けて、関係機関と連携し幌向地区自然再生に取り組みます。



交通対策の推進

町民の生活交通対策として、交通空白地域の解消を図るために運行している町

内巡回バスは、国のフィーターシステム補助を受けて、主に高齢者の通院や買い物などへの外出に利用されており、近年は、高齢者や運転免許証返納者の増加などに伴い、利用者も増加傾向にあります。

町内を運行する民間の路線バス等に影響を与えない範囲で運行を継続しながら、地域の高齢化動向を踏まえつつ、アンケート調査などによる運行ニーズの確かな把握と将来的な本町の地域公共交通のあり方について研究を進めながら、地域公共交通活性化協議会で議論します。

道央圏連絡道路の中樹林道路は、地盤改良工事及び物件補償が引き続き進められる予定であり、長沼南幌道路につきましても、用地買収、物件補償などが行われる予定です。今後これらの整備が一層図られるよう、関係自治体からなる期成会による要望活動を進めます。

一般国道337号の南10線から南6線までは、引き続き道路拡幅など、事故ゼロプランの対策が進められる予定です。

## 交通安全と生活安全対策

**交通安全対策推進事業** 6,460千円

65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、ハイヤー利用料金の助成を行うことにより、高齢者の運転による交通事故の防止及び外出支援を図る。

## 町民のニーズに応じた協働と広域連携の推進

**学生地域定着支援推進事業** 814千円

江別市内の大学や研究機関、近隣自治体と連携し、大学生の地域定着や大学などが有する知的資源の更なる活用を図る。

- 学生地域定着推進協議会運営経費負担金(事務局：江別市)

## 財政基盤の強化と行政改革の推進

**ふるさと応援寄附事業** 30,788千円

全国各地の皆さんから寄付金を募り、お返しに特産品を贈呈することで、知名度向上や特産品のPR、販売促進につなげる

- ふるさと納税広告宣伝

ふるさと応援寄付を募るため、首都圏の新聞や全国誌に広告を掲載



また、町道及び橋梁の点検並びに維持補修を計画的に行うとともに、除排雪体制を整え、安全な道路を確保し生活環境の向上に努めます。

### 交通安全と生活安全対策

交通安全対策につきましては、交通安全運動推進協議会を中心に栗山警察署、交通安全関係団体並びに行政区・町内会と連携を図りながら、啓発運動を展開し、町民一人ひとりの交通安全意識の向上に努め、交通事故の減少と死亡事故の撲滅を目指します。昨年度より実施した「高

第4「信頼づくりのまち」  
町民のニーズに応じた協働と広域連携の推進

「第6期南幌町総合計画」では、まちづくりの基本理念を「誰もが笑顔で活躍できるまちづくり」、将来像を「緑豊かな田園文化のまち」と定め、町民や団体・企業など、まちに関わる多様な主体が参加・活躍し、本町から発信する取り組みを創り出すことで、地域の特性

年齢者運転免許証自主返納支援事業」につきましては、30名を超える方が運転免許証を返納されました。引き続き、高齢者の運転による事故防止と外出支援を目的として取り組みます。

生活安全対策につきましては、生活安全推進協議会を中心に栗山警察署並びに関係機関と連携し、地域への情報提供を行い高齢者を狙った特殊詐欺などの刑法犯罪の未然防止に取り組みるとともに、事件事故等の抑止対策として、防犯カメラの設置を進め、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

現代の情報化の流れの中で重要な役割を担い、町の顔でもあるホームページのほか、インターネット上の交流サイト「フェイスブック」をより一層活用し、まちのホットな話題やイベント・観光などのほか、企業誘致やみどり野団地販売、移住などの情報を町内外に発信します。



や資源を十分に生かせるまちづくりを目指します。

今後も協働のまちづくりを推進し、町民と職員とのコミュニケーションを図るため、「地域担当職員制度」「職員出前講座」を引き続き実施します。また、私と町民が意見交換を行う機会として「故郷ふれあいミーティング」などを通じて、まちづくりに対するご意見やご提案をいただきながら、目指すまちの姿の実現に向けて取り組みます。

町税は、町財政の根幹であり、自主財源である税収確保は極めて重要です。税負担の公平、公正の観点に基づき適正な課税客体の把握を行うとともに、納期内納付の推進を図ります。滞納者に対しては生活実態に応じて、徴収猶予や分割納付を実施し、悪質な滞納者には給与、預貯金、不動産などの差押えにより滞納処分を行い、財源確保に努めます。

ふるさと納税は、全国各地の皆様から寄附金をお寄

### 財政基盤の強化と行政改革の推進

広域連携では、現在、取り組んでいる近隣3町との連携検討会議での議論や事業の実施をはじめ、江別市等関係自治体との学生地域定着支援推進事業、空知総合振興局と管内24市町で構成する北海道空知地域創生協議会のほか、南空知ふるさと市町村圏組合など一層の連携を進めます。



せいただき、お礼に農産物を中心とした本町の特産品などを贈呈することにより、町のPRや産業振興につながっています。寄附金は、寄附をされた方の想いを大切に、子どもたちの活躍を支え成長を願う事業や、高齢者が安心して生活できる事業などの貴重な財源として有効に活用させていただきますとともに、寄附金額や活用事業の公表を行います。

本町の財政状況につきましては、現時点では大幅な歳入増加が期待できない一方で、歳出では社会保障関係費や公共施設の改修など投資的経費の増加が見込まれることから、依然として厳しい状況が続くものと考えられます。このため、限られた財源や資源を最大限に活用するとともに、「第2次南幌町行財政改革実行計画」に基づき、持続可能な財政規模を維持し財政基盤の安定化に努めます。

詳しい内容は、町ホームページまたは情報コーナーでご覧ください。

## 生涯各期に応じた多様な学習機会の充実を図る

# 教育行政 執行方針



### 1 学校教育の推進

次期学習指導要領に示されている「子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」「知識の理解の質をさらに高めた、確かな学力の育成」「道徳教育や体育・健康に関する指導の充実による豊かな心や健やかな体の育成」を基本に家庭、地域、学校、行政が一体となった教育活動の充実に向けて、次の重点項目に取り組みます。

□ 確かな学力を育む教育活動の充実

子どもたちが、変化の激しい社会を生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力に加え、主体的に学習に取り組み態度を身につけることが重要です。

「全国学力・学習状況調査」や「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果をもとに、小・中学校における基礎学力向上プランの見直し等を行い、授業改善や学習指導の充実に向けた取り組みを推進するとともに、家庭と連携し、望ましい生活習慣と学習習

慣の定着を図ります。

さらに、基礎学力と学習意欲の向上、家庭学習の定着への取り組みとして、補充的な学習の充実を図るため、小・中学校に公設学習塾を新たに開設します。

外国語教育につきましては、学習指導要領の改訂に伴い、小学校では、平成32年度より3・4年生で「外国語活動」が、5・6年生で「外国語科」が本格実施されることから、本年度より2年間の移行措置として、それぞれの学年で適正な授業時数を確保し、円滑な移行を図るとともに、子どもたちの積極的なコミュニケーション能力の育成のため、引き続き外国語指導手を配置します。

また、国際社会で活躍できる人材を育成するために、海外短期留学による生きた英語力を身につける「中学生国際留学プログラム事業」を本年度も実施します。

□ 豊かな人間性と健康な体の育成

子どもたちの健やかな成長のためには、基本的な倫理観や規範意識を身に付け、自立心や自他の生命を尊重す

るなど、豊かな心を育てることが大切です。

小学校においては本年度から、中学校においては平成31年度から「特別の教科である道徳」として、新たに位置付けられることを踏まえ、発達段階に応じ、一人ひとりの児童生徒が、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実を図り、豊かな人間性を育むよう指導します。

暴力行為やいじめなどの問題行動や不登校などの諸課題につきましては、子どもたち同士の望ましい人間関係を醸成する学校経営を通して未然防止に取り組みることが重要です。

特にいじめについては、「絶対に許されない」という強い認識に立ち、学校が実施する調査や教育相談などにより、情報を共有して迅速な対応を行い早期発見・早期解決に努めるとともに、発見した際は、関係機関との連携による実態把握やスクールカウンセラーによる児童生徒の心のケアなど、すみやかに対応します。

健康な体の育成につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本

町の児童生徒の実態を踏まえ、積極的に運動に取り組み、意欲を育てるため啓発活動など、児童生徒一人ひとりの体力や運動能力の向上に向けた取り組みを推進します。

学校給食につきましては、「南幌町食育推進計画」に基づき「農業がもつ食のすばらしさを伝える」という基本理念のもと、地元農産物の活用などを通じて、食材への感謝や主要農産物に対する理解を深めるなどの食育を推進するとともに、米やパンなどの主食分の費用について町が全額負担し、保護者の負担軽減を引き続き図ります。

□開かれた学校づくりと教育活動の充実

学校運営上の課題を解決し、子どもたちの豊かな成長を支え、より良い教育環境をつくるためには、学校と家庭や地域が相互に連携し、協働していくことが重要です。

本年度から小・中学校に学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールを導入し、保護者や地域の皆さまの意見を学校運営に反映させ、「地域とともにある学校づくり」に取り組みます。

キャリア教育につきましては、児童生徒の望ましい勤労観や職業観の育成を図るため、地域の協力を得ながら、総合的な学習活動や職業体験活動等の充実を図ります。

特別支援教育につきましては、引き続き小・中学校に特別支援教育学習支援員を配置し、教育上配慮を必要とする児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導や支援を受けられる体制づくりに努め、きめ細かな教育を推進します。

このほか、教職員による体罰や交通違反などの不祥事根絶に向け、職場研修や個人面談などを通し、自覚を促す指導を行い、服務規律保持の徹底に努めます。

□教育環境の充実

学校教育を維持・向上させるためには、児童生徒が安心して通学し、継続して学べる教育環境の充実を図ることが重要です。

南幌小学校につきましては、南幌町立小学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、2学級を維持するため、町独自による教員の加配に

より、第4学年に少人数学級を導入し、きめ細かな指導を引き続き行います。

また、南幌小学校のパソコンの更新に伴い、タブレット型コンピュータや電子黒板などを導入し、情報通信技術を活用したよくわかる授業づくりと教育の質の向上に努めます。

「高等学校等通学費補助事業」につきましては、通学する学校毎の定額補助として引き続き実施し、保護者の負担軽減を図るなどの子育て世代への支援を行います。

□南幌高等学校への支援

南幌高等学校につきましては、昨年度より通学費補助の拡大を図ったほか、南幌中学校卒業生を対象とした入学祝い金補助制度を創設し、生徒の充実した学校生活を

支援してきましたが、依然入学者が募集定員に満たない状況です。

本年度においても、経済的な支援に加え、学校が行っている魅力ある高校づくりへの支援や情報発信を行い、入学者の増加に向けた取り組みに努めます。

□姉妹町児童交流の推進

熊本県多良木町との児童交流学習事業につきましては、本年度で9回目を迎え、この間、多くの出会い、ふれあいを通して、児童のみならず、家族ぐるみ・地域ぐるみの輪が広がってきています。

本年度も引き続き両町の絆を一層深める交流を進めます。



## 2 社会教育の推進

町民が、心豊かな生活を送

るためには、多様な学習機会を提供し、主体的な学習活動を支援するなど社会教育の充実を図ることが必要です。

そのため「第3期社会教育中期推進計画」に基づき、社会教育審議会による点検・評価を踏まえ、家庭や地域の教育力向上への取り組みや関係団体の活動支援、社会教育施設・地域を支える人材等の教育資源を活用した社会教育事業を推進するため、次の重点項目に取り組みます。

□子育て・家庭教育の支援

核家族化や地域とのつながりの希薄化などを背景とした、家庭教育力の低下が指摘されていることから、家庭と地域との結びつきを深め、地域全体で子どもを守り育てる体制をつくる必要があります。

そのため、生涯学習サポートや小・中学校、PTA等の協力を得て、親学講座の開設や子育ての悩み・不安を解消するための環境をつくり、家庭教育の向上に努めます。

□青少年健全育成の推進

次代を担う子どもたちの

健全な育成は、家庭・地域・学校が相互に協力しながら、社会全体で行うことが大切です。

そのため、地域の協力を得て、小学校との連携を図り、放課後子どもプラン推進事業を実施し、多様な体験ができる環境づくりに努めます。

また、青少年健全育成協議会やPTA連合会などの関係団体と連携協力し、いじめ防止やネットモラルなどの青少年問題に取り組むとともに、ジュニアリーダー研修への派遣や子ども会リーダー事業などの支援を行い、多くの子どもが多様な事業に参加できる機会の確保に努め、次代を担うリーダーの養成を図ります。

#### □生涯学習、社会教育の推進

個人の要望や地域社会の要請に対応するため、主体的で継続的な学びの機会を提供することが大切です。

そのため、各種団体が自ら実施する学習活動を支援するとともに、生涯学習センター「ぼろろ」を拠点として、町民が自主的・主体的に学ぶことのできる、様々な講座の開設などの学習環境の充実に

努めます。

また、「生涯学習推進基本構想」に基づき、南幌らしい生涯学習社会の実現に向け、町民が生きがいをもって活躍できる機会の創出に努めます。

さらに、コミュニケーション・スクールの導入に伴い、各種社会教育団体や生涯学習サポーターと連携協力し、これまで取り組んできた学校支援体制の充実に努めます。

#### □スポーツ・レクリエーション活動の推進

生涯にわたり健康で生きがいのある生活を送るためには、身近にスポーツやレクリエーション活動に参加できる機会の充実に努めることが大切です。

そのため、スポーツ推進委員や関係団体と連携協力して、各種スポーツ大会やスポ



ーツ教室などを開催し、地域間交流の活性化や健康づくり・体力の向上に取り組みます。

また、子どもたちの体力向上を目指し、運動能力の基礎が形成される就学前や低学年を対象としたスポーツ教室を開設するなど、幼少年期からスポーツに親しむ環境づくりに努めます。

#### □芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全

芸術や文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするものであると同時に、社会全体を活性化する上で大きな力となるものであり、その果たす役割は極めて重要です。

個性豊かな地域文化の振興を図るには、芸術や文化への理解を深め、素晴らしさを実感し、生涯を通じて文化的な営みを続けることが大切です。

そのため、文化協会をはじめ、各加盟団体において行われている芸術文化活動を支援し、その活性化を図るとともに小・中学校や関係機関と連携協力して、優れた芸術の

鑑賞や発表する機会の充実に努めます。

また、地域に根ざした郷土芸能の伝承・普及活動を行っている団体を支援するとともに、町の歴史を伝える貴重な資料の保存・継承に努めます。

#### □読書活動の推進

読書に親しむことは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな情操を育む上で極めて重要です。

子どもから高齢者まで、あらゆる世代において読書を続けることができるよう、読書環境を充実させることが大切です。

そのため、生涯学習センター図書室が、いつでも気軽に読書や学習活動ができる場となるよう環境の整備に努



めます。

また、子どもたちの読書への関心を高めるため、「子ども読書活動推進計画」に基づき、読み聞かせサークルの皆さまの協力のもと、幼稚園や保育園、小学校での読み聞かせや朝読書などを実施します。

さらに、情報メディアの発達や子どもたちの生活習慣の変化により、「活字離れ」が指摘されている中で、読書活動の重要性和大切さの理解を求め、「子どもの読書週間」などに合わせた啓発活動や事業の推進に努めます。

#### □社会教育関係施設の充実

生涯学習センター「ぼろろ」をはじめとする社会教育関係施設は、町内外の多くの方々にご利用いただいています。

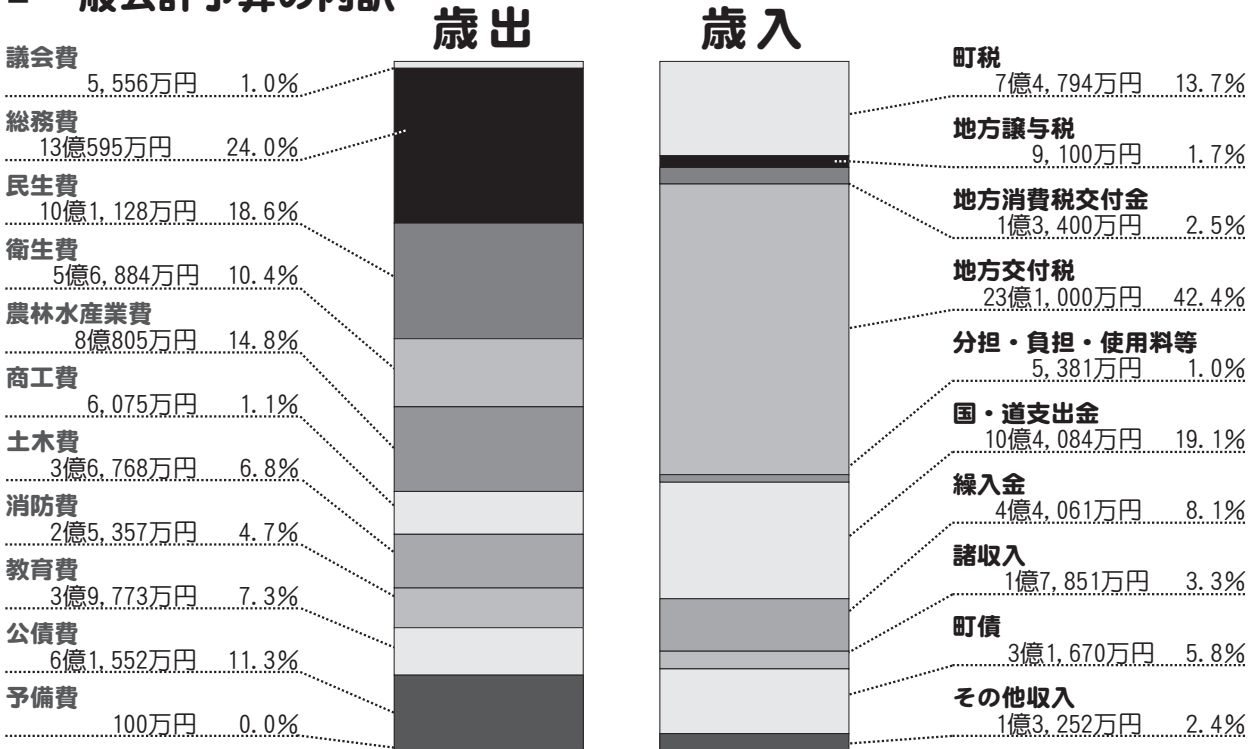
これらの施設が子どもから高齢者まで、誰もが気軽に安心して利用できるよう、適正な維持管理と安全で安心な施設の整備など、利用環境の向上に努めます。

詳しい内容は、町ホームページまたは情報コーナーでご覧ください。

## ■ 各会計の予算

区 分	平成30年度	平成29年度	増減率	
一 般 会 計	54億4,593万円	54億9,347万円	△0.9%	
特 別 会 計	国民健康保険	10億2,203万円	12億5,321万円	△18.4%
	病院事業	6億2,370万円	7億7,320万円	△19.3%
	下水道事業	2億768万円	2億1,363万円	△2.8%
	農業集落排水事業	1,486万円	1,436万円	3.5%
	介護保険	7億1,288万円	7億4,341万円	△4.1%
	後期高齢者医療	1億10万円	9,800万円	2.1%
計	81億2,718万円	85億8,928万円	△5.4%	

## ■ 一般会計予算の内訳



## ■ 町の貯金(基金)

(平成29年度末見込み)

基金名	金額
財政調整基金	8億5,072万円
減債基金	3億2,963万円
教育振興基金	72万円
地域福祉振興基金	1,331万円
南幌温泉ハート&ハート基金	420万円
中山間ふるさと水と土保全基金	1,067万円
ふるさと応援基金	7,645万円
農業支援対策基金	87万円
計	12億8,657万円

## ■ 借金残高と返済額の推移

